

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年7月20日）

台風6号の接近に伴い、天気予報は雨、しかも風も強いということで不安を抱えながらの支援・交流活動になりました。定時の5時45分に弘前大学を出発。今回の参加者は、学生6名、教員4名、市民17名の計27名でした。男女比は男性14名、女性13名です。平日の活動ということもあって、今回も学生の参加者が少なく、市民の方が圧倒的に多い構成でした。初めての参加者は4名で、残りは全員経験者、中には20回を超える参加者もいました。

バスの中では、全員物資の仕分け等の室内の仕事になるのではという話も出ていましたが、災害ボランティアセンターと連絡を取ったところ、室内での作業はほぼ終了しており、今日は側溝の泥上げなど屋外での活動を予定しているとのこと。不安がより一層募ります。現地に着いてみると、厚い雲が空を覆っていたものの、幸い雨は上がっており、作業は何とか開始できそうな状況でした。雨が強くなったら切り上げるということを確認したうえで、作業に入ります。ちなみに、今日のボランティア活動は、「チームオール弘前」を含めて3団体50人弱が参加していたようです。



雨の不安を抱えながら道の駅「おおの」で



個人宅のグループを苦しめた木の根っこ

今回は2つのグループに分かれて作業を行いました。4人のグループは、以前にもお手伝いをさせていただいた個人のお宅に伺い、庭や畑の清掃を行ったそうです。木の根を掘り起こしたり雑草を取ったりという作業だったようですが、思いのほか木の根を掘り起こす作業に難渋したとのことでした。

残りの23人は側溝の泥上げでした。野田村役場からは若干離れたところだったのでバスで移動します。現場に着いて一目見たときには、どこに側溝があるのか分かりませんでした。それくらいきれいに側溝が埋まってしまっていました。しかも、堆積している瓦礫が上から押し付けられて固まってしまったかのように硬くなっており、スコップだけではほとんど掘り進めることができないような状態でした。つるはしである程度砕いてからスコ

ップで土嚢に詰め、それをボランティアセンターから出していただいた軽トラックに積み込んですぐ近くの瓦礫置き場に持っていくという作業を繰り返します。最初はそれぞれの仕事内容も定まらず、試行錯誤を繰り返していましたが、徐々に役割分担が決まりだし、チームワークも自然と生まれてきて、作業がどんどんスムーズに進むようになっていきました。



「かまどのつきや」でご馳走になったお昼



昼食の風景

お昼は、今日もお弁当を注文して作っていただき、「かまどのつきや」でいただきました。おにぎりや卵焼きや煮物を中心としたお弁当と、お豆腐、そしてあんこ餅と、心のこもったお昼をいただいて、午後の作業に向けて活力を得たような気がします。



作業開始前の側溝の様子



作業終了時の側溝の様子

午後は、個人宅のグループは、1人お手伝いを増員しました。木の根の掘り起しが予想以上に大変で大分苦労したようですが、最終的には何とか依頼された内容は完了できました。側溝の泥上げグループは引き続き作業を続けましたが、14時を過ぎた頃から急に強い雨が降り出したため、やむなく作業の続行を断念しました。それでも、側溝の泥はほぼ

完全に土嚢に詰め終わっており、後は土嚢を瓦礫置き場に持っていくという作業を残すだけでしたので、ほぼ完了と言えるところまでは出来たかと思います。

今回は雨の影響もあっていつもよりも少し早めに野田村を後にしましたが、それでも 2 グループとも依頼された内容をほぼ完遂できたことは、大きな充実感に繋がっていると思います。帰りのバスの中では、以下のような感想が聞かれました。

- 人生で初めて「つるはし」を使った。いい経験になった。
- お昼のお豆腐がとても美味しかった。
- 体力に自信がなく、果たして足を引っ張らずにできるだろうかと心配だったが、人生の大先輩の皆さんが元気で、こうしておれないと思った。
- 今回は成果が目に見えて分かった。やっとボランティアらしいものができたと実感した。
- 力を合わせて一つの目標に向かっていく人の力は凄いなと思った。
- 二ヶ月ぶりに来たが、町がきれいになっていた。ただ、海浴いはまだまだ散らばっていて、これを忘れてはいけないなと思った。

私は今回、約 1 ヶ月ぶりの参加になりましたが、まず目に付いたのが、4 月に一度お手伝いに伺ったお店が再開していたことです。4 月に伺った際には、店のウィンドウがすべて破壊され、店の中も泥だらけでした。先月バスで通り掛った際もウィンドウ部分にベニヤ板が張られていて中の様子は見えませんでした。それが今回正面入口もきれいに直され、店内も明るく多くの商品が並べられていました。実際にお手伝いをさせていただいたのは僅か 2 時間くらいでしたが、一度お邪魔したお宅のことは何となく気になっているもので、今回再開されている様子を見て、ちょっとホッとしました。また、前回初めて海岸線をバスに乗った状態で見ましたが、そのときはほとんど手付かずに近いような印象を受けていました。今回は、そのほとんど手付かずだった場所にも重機が入っており、少しずつ片づけが進んでいました。かつての野田村の姿を取り戻すにはまだまだ時間が掛かるとは思いますが、一部ではあっても少しずつ前進している姿を見ることが出来たのは嬉しいことですし、次回以降の活動のモチベーションにも繋がってくるのではないかと思います。

今回は予想以上に気温が低く、海からの風が強かったこともあって意外と肌寒いという印象を受けました。今月から暑さ対策としてウインドブレーカーではなくビブスにしていますが、今日に関してはウインドブレーカーでもよかったかもしれません。その日の天候にもよりますし、作業内容にもよりますが、両方を用意していてもいいのではないかと思います。

(担当 平野 潔)